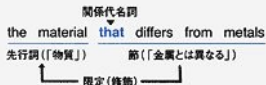


1-3 関係詞

副詞や形容詞による名詞の限定・修飾について前節で述べた。先行する語句（先行詞）を節（一組の主語と述語から成るまとまり）で限定・修飾する場合、それらを結びつけるのが関係詞である。これらのうち、代名詞のはたらきをしながら文（節）と文（節）とを結ぶのが「関係代名詞」、副詞のはたらきをしながら両者を結ぶのが「関係副詞」である。



このような関係代名詞、関係副詞を用いることにより、英語の表現を飛躍的に拡大させることができる。また、関係詞を理解すると、英文の仕組みがよくわかり、読んだり書いたりするのが楽しくなるだろう。“理科系の英語”においても多用される表現法なので、関係詞に習熟することは極めて大切である。

1) 関係代名詞

いろいろな関係代名詞

一般的に用いられる関係代名詞は which / who / that / what である。これらのうち what は、先行詞を兼ねた複合関係代名詞と呼ばれる。また、who / which / what に -ever（「いずれの」、「とにかく」の意味）をつけた whoever / whichever / whatever も先行詞を兼ねた複合関係代名詞である。これらの関係代名詞の中で、“理科系の英語”において特に重要なのは which と that である。

普通の代名詞（we / they / it など）と同様に、関係代名詞にも「格」（主格、所有格、目的格）がある。

関係代名詞は、先行詞が「人間」か「人間以外」か、また後述する「限定（制限）用法」か「非限定（非制限）用法」かによって使い分けられるのであるが、それらの用法を「格」と共に表 1.2 にまとめて示す。

以下、which と that を中心に説明する。

■表 1.2 関係代名詞の用法

	限定および非限定用法		限定用法
先行詞	人間	人間以外	人間および人間以外
主格	who	which	that
所有格	whose	whose (of which)	—
目的格	whom	which	that

限定用法と非限定用法

関係詞は基本的に先行詞を「限定」するものであるが、その「限定」の仕方が「補足説明」的に「限定」する場合にも関係詞を用いることができる。このような用法を厳格な「限定用法」に対して「非限定用法」と呼ぶ。「非限定用法」は「挿入法」と呼ばれることもある（文法書に